

# 系碕神社新報

第 243 号

令和 8 年 5 月 10 日

系碕神社

三原市系碕 8-10-1

Tel. 0848-68-0102

発行 系碕神社事務局

責任編集 宮司 松本 圭

## 端午の節句あれこれ

五月五日のこどもの日は、昭和二十三年（1948）に制定・施行された「国民の祝日に関する法律（通称祝日法）」によって定められた祝日で、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」とされています。こどもの日は

「端午の節句」に由来するのは勿論ですが、端午の節句の諸習慣、すなわち、鯉のぼりを上げたり、ちまきを食べたり、菖蒲湯につかったり、といったものは、それぞれ違う起源があるようで、なかなか興味深いものがあります。これからお話しすることの細部に関しては諸説がありますが、比較的有力と思われる説を採りました。

### 〇中国の端午節

古代中国では、十二支を以て月の呼称としていました。前漢の時代に寅の月が正月と定められ、そこから数えて五番目の月である午の月が、（勿論旧暦の）五月に相当することになりました。ゆえに、端午とは「五月の初め頃」という意味合いになります。「なぜ寅の月が正月？一番目の子の月でなくて？」と、疑問に思われるでしょうが、陰陽五行説に沿って長々と

説明しなければならなくなるので、詳細は割愛します。

### 〇中国の端午節

端午の節句は日本、朝鮮半島、台湾、ベトナムといった国々に根付いた習慣ですが、大本は古代中国の端午節です。

昔々、古代中国の戦国時代、楚の国に政治家で詩人の屈原（紀元前 343 頃～278 頃）という人がいました。西隣りの強国秦に如何に



対峙すべきか、楚の家臣達の間で意見が割れていました。秦を信用ならぬ相手と見抜いていた屈原は、東隣りの斉と結んで秦に対抗するよう主張しましたが、親秦派の家臣達の背後にいた秦の宰相、張儀の謀略によって屈原は失脚、左遷されてしまいました。その後、張儀の策略に踊らされた楚の懷王は、ついに、首都を秦に攻め取られ

てしまいました。

衰退していく楚のありさまを嘆いた屈原は、汨羅江という川に身を投げて自殺してしまいました。それが旧暦の五月五日のことであったと伝わっています。屈原を尊敬する人々が、五月五日を屈原の死を悼む日としたのが、端午節の始まりです。

川に身を投げた屈原の遺体を守ろうとした人々が、遺体から魚を遠ざけるために川に米を撒いたと伝えられており、端午の節句にちまきを食べるのは、これに因んだものとされています。中国や日本を含め、端午の節句がある各国には、粽やそれに似たものを食べる習慣があります。

### 〇菖蒲の節句

次に、屈原の悲劇の内容とは関係の無い、五月五日だからこそ行うようになった、菖蒲を使った邪気祓いの風習について。

陰陽五行説では、奇数は陽数、つまり縁起が良い数であり、偶数は陰数とされます。奇数が重なる五月五日は、めでたさが極まる日と取れますが、奇数の五と五を足すと偶数になるので、陽が極まり陰に転じる縁起の良いくない日とも取れます。また、

旧暦五月五日は新暦の六月のなか頃に当たり、気温が上がって水や食物が傷みやすくなり、加えて、ハエや蚊などが活発になりますので、病気に罹りやすくなってくる時期です。病気が邪気によるものと考えていた昔の人々は、端午の節句に邪気祓いを行うようになります。



端午の節句は菖蒲の節句とも呼ばれ、香りが強い菖蒲や蓬を邪気祓いに使う習慣が古代中国で始まり、奈良時代に日本に入ってきました。清少納言の「枕草子」に、平安時代の端午の節句の様子が記されています。

節は五月に如くはなし／菖蒲、蓬などの薫り合いたるも、いみじうをかし／九、重の内を始めて、言知らぬ民の住み家まで何で我が許に繁く葺かむと葺き渡したる、猶、いと珍しくいつか

ふらんすへ行きたしと思へども／ふらんすはあまりにも遠し／せめて新しき背廣をきて  
 気ままなる旅にいでてみん。／汽車が山道をゆくとき／みづいろの窓によりかかりて  
 われひとりうれしきことをおもはむ／五月の朝のしののめ／うら若草のもえいづる心まかせに。  
 ※萩原朔太郎「旅上」。旅上とは旅立ちのことです。国語の教科書に取り上げられていたの  
 でご存知の方も多いでしょう。皆様も、五月にこそ、ふらりと旅に出たくありませんか？

ことおり  
 異 折は、然はしたりし

(現代語訳) 節句は五月の端午の節句が一番だ。菖蒲や蓬などの香りが混じり合い、とても素晴らしい。九重の内裏(宮中)をはじめとして、名も無き庶民の住居まで、なんとかして少しでも多く菖蒲を屋根に葺こうとして、屋根一面に葺いてあるのは、とても珍しい光景だ。他の節句で、こんなことをするであろうか)

平安時代ほど大がかりなことはしなくなりましたが、現代でも、菖蒲湯に浸かったり、軒先に菖蒲を吊したりしますね。

菖蒲の音は「尚武(武を尊ぶ)」や「勝負」に通じます。また、菖蒲の葉が剣の形に似ていることもあり、後の時代に、武家社会の祝い事という側面も持つようになりすが、これは日本固有のことです。

○柏餅 武者人形、鯉のぼり

子々孫々まで家が繁栄して家名が続いていくことが、武家にとつて最も大切な使命であり願ひでした。従つて、「尚武」の節句でもある端午の節句に、鎧兜を飾り、家紋の入った幟を掲げて男児の誕生や無事な成長を祝い、その子の立身出世を願うのは

自然な成り行きでしょう。また、柏の葉は新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、柏葉を無事な家系継承の象徴と見立てて、縁起をかついで、柏餅を端午の節句に食べるようになったのだそうです。これにてようやく「端午の節句」が「子供」と結びつくようになりました。



武家の風習が庶民の間に広まったのは江戸時代のことですが、身分制度の関係上、武家以外の身分の家で鎧兜を飾ったり幟を上げたり出来ませんでした。それらの代わりに、武者人形を飾り、立身出世を象徴する鯉をかたどった鯉のぼりをあげるようになりまし。

いかがでしたでしょうか？偉人を追悼する日が諸々の経緯を経て子供の成長を祝う日ともなり、その過程で生まれた雑多と

も言える色々な習慣が、少しずつ形を変えながら今も生きているのが、日本の端午の節句です。

糸崎天神社例大祭

四月二十六日(日)、糸崎神社の例大祭が齋行されました。例年通り、午前九時半から神事、十時半から神賑わい行事のビンゴゲームが行われました。

当日は、朝から怪しげなお天気で、昼頃には雨が降り始めるとの予報が出ていたのですが、それにも関わらず、大勢の方々が参集されました。天神さんも



お喜びのことと思います。

ワイワイと賑やかにビンゴゲームが行われ、終盤に「パラッ、パラッ」と小雨がばらつき始めましたが、後片付けが完了するまで本降りにならずに済みました。ありがたいことです。

例大祭前日の準備、当日の運営、後片付けにご協力下さいました、糸崎小学校区十二町内会の皆様に厚く御礼申し上げます。

そして、祭りに参集された皆様に、天神さんのお導きがありますよう、お祈り致しております。予定

○広島県神社庁三原支部総会

五月二十一日(木) 午後二時

糸崎神社参集殿にて。総代会役員の方で、出席可能な方は、宜しくお願い致します。

○広友加羅須美社水無月祭

六月一日(月) 午前十時半

○松浜西住吉神社総代会

六月十七日(水) 午後七時

○松西公民館にて

○夏越大祓の準備について

以下の要領を進めようと思っております。皆様のご協力をお願い致します。

①茅萱の収集と選別

六月十四日(日) 午前九時

②茅萱大縄の調整

六月二十一日(日) 午前九時

集めておいた茅萱を使って大縄を調製します。この作業が最も多くの人手を必要とします。ご協力のほど、宜しくお願い致します。

③大萱刈り取り・大輪の調製

六月二十八日(日) 午前九時

以上 糸崎神社宮司 松本圭